

## 普及活動情勢報告（平成30年8月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

### 次園芸年度に向けての点検活動体制を確認 ～J Aとさし集出荷場GAP出荷場巡回～



（出荷場資材は次園芸年度にむけてきちんと整頓されていた

7月27日、J Aとさし販売課と共に集出荷場（7ヶ所）を巡回し集出荷場GAPの今園芸年度の振り返りと次園芸年度の点検活動体制の確認を行いました。

促成品目の今園芸年度の出荷も終了し、集出荷場もきちんと整理されていましたが、担当者によると、鳥の飛び込み等新たな課題も出てきており、次園芸年度に取組んでいくことになりました。

農業改良普及課からは作業員への周知方法（注意喚起ポスターの掲示）について提案し、全出荷場での実施になりました。

農業改良普及課は次園芸年度もJ A、園芸連と連携し2ヶ月に1回点検活動を行い、集出荷場GAPの定着を推進していきます。

### 環境制御技術の導入推進！！

#### ～平成30年度中央西地区環境制御技術普及推進会議の開催～



環境制御技術推進のための課題を検討中

7月23日、構成員36名（農家4名、関係機関32名）が参加して中央西地区環境制御技術普及推進会議を開催しました。

普及課、高知、高吾普及所、農業技術センター及び担い手育成センターが行ったH29年度実証試験結果と次年度の試験計画を報告して、技術的な課題解決に向けて検討しました。また、今後の活動内容について構成員の皆様にご意見をお伺いするとともに、環境制御技術普及促進事業についての説明も行いました。

参加者からは、「労働力が課題となる」「技術導入による変化をお金の流れで示してもらいたい」等の意見が出ました。

農業改良普及課は、意見交換の内容を踏まえ、関係機関と連携し今後とも環境制御技術を普及推進していきます。

### 熱中症を防ごう！

#### ～はちきん農業大学地域講座「熱中症対策について」～



熱中症の怖さを学びました

7月31日に女性農業者を対象にした、はちきん農業大学地域講座を開催しました。今回は、講師を招いて熱中症の怖さについて勉強しました。参加した農業者の中には、この夏すでに熱中症を起こしたことがある人や、初期症状を知らなかった人もいて、暑さから身を守る対策を多く学びました。

また、講座の後にはアシストスーツの説明と試着体験を行い、「腰の負担が少ない」等の意見がありました。

農業改良普及課では、今後も地域講座の開催を予定しており、次回開催は9月11日の「農業機械講座」です。

より良い栽培管理に向けて  
～JAコスモス生姜生産者交流会を開催～



「ほ場整備は受益者負担も少なく  
(ほぼゼロ)、農業を守るために有効  
です。」に、聞き入る生産者

JAコスモス各支所生姜生産部会は、栽培技術向上と生産者同士の情報交換等を目的に7月27日、JAコスモス伊野支所で生姜生産者交流会を開催し、生産者60人が参加しました。

農業改良普及課は、病虫害防除技術や低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒実証ほについて、基盤整備課はほ場整備の実態やほ場整備事業について紹介しました。

ほ場整備事業については、別途に若手生産者を集めて具体的な地区を想定した事業紹介をしてはどうかとの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係部署・機関と連携し、ショウガの生産安定に向けた環境整備や技術向上を支援します。